

奥谷金網

新工場棟 3月に取得

パンチングメタル生産能力拡大



【神戸】奥谷金網製作所（神戸市中央区、奥谷勝彦社長、078・351・2531）は、発電プラント用フィルターなどに使う高精度なパンチングメタル（打抜金網）の生産を拡大する。主力の明石工場（神戸市西区）エリアで3棟目の新工場を3月に取得する。併せて欧州製の大型パンチングプレスマシンを今秋に新工場棟へ導入する。総投資額は5億円。年内めどに同社のパンチングメタルの生産能力は現状比30%向上する計画だ。

明石工場は現在2棟内で製缶工場だったものが神戸鉄工団地にあのを活用する。2階建てで延べ床面積は1564平方メートル。導入する大型パンチングプレスマシンは同分野の有力



メーカー、ベルギーのスターネン製。200ト

プレスの能力で、最大加工シートサイズは2000mm×4000mm、加工板厚は1mm～25mmに対応する。

新設備の導入で、奥谷は板厚の半分の孔をパンチングプレスできる技術の確立を狙う。「培った生産ノウハウを駆使し、板厚6mmのステンレス材で直径3mmの孔がプレス加工できるようにする」（奥谷智彦専務）という。

ベルギー・スターネンの大型パンチングプレスマシン

今回の生産能力拡大は海外輸出への対応も視野に入れている。同社は2025年5月期（想）、人員も現在の27人に売上高で15億円（16年5月期は10億円）の予想。